

米国マサチューセッツ州で見た北海道との姉妹都市交流

ニューヨーク事務所

コンコード町

2011 年 10 月 1 日から 2 日にかけて、北海道七飯町との姉妹都市交流を支えているマサチューセッツ州関係者を訪問した。9 月 23 日から 30 日まで七飯高校の生徒を中心とした 72 名の訪問団がコンコードを訪れ、コンコード・カーライル高校生徒との合同演奏会やホームステイなどの交流を行った直後の時期であった。

両地域は 1997 年に姉妹都市提携を結んでおり、提携時から両地域の交流を支えてきたキーパーソンがコンコード・七飯町ネットワーク代表のトム・カーティン氏である。同氏は「私たちは毎年ホームステイを続けてきた。これはとても意味のあることだ」と強調した。ホームステイ最後の日は必ず涙のお別れになり、見送る側は走ってバスを追いかけるのが慣例になっているようだ。また、“バイなら”という“バイバイ”と“さよなら”を組み合わせたお別れのあいさつも伝統となっているという。「言葉の融合は文化の融合にも通じる」と同氏は教えてくれた。

また、コンコード・カーライル高校の吹奏楽部を訪問した際には、顧問や練習中の生徒が暖かく迎えてくれた。同校は国際交流に熱心で、長年にわたり七飯高校と合同演奏会を積み重ねてきたことから、2010 年 4 月に両高校で姉妹校提携を結ぶまでとなっている。

続いて訪れたソーロー小学校では、日本との交流の証として図書室に日本の図書コーナーが設けられていたことが印象的であった。東日本大震災の時には、コンコード・カーライル高校とソーロー小学校が、14,857 ドルの募金を集め、日本の被災地に寄付したという。

2 日間の行程をお世話してくれた北海道・マサチューセッツ協会会員の方の存在も印象的であった。こうした交流はボランティアの力で支えられているという。2012 年に姉妹都市提携 15 周年を迎えるにあたり、関係者では早くも打ち合わせをはじめているとのことであった。

スプリングフィールド市

10 月 19 日から 25 日まで、北海道滝川市で実施した中学生・高校生 7 名をメンバーとする「ジュニア大使訪問団」の事業に一部同行した。

両地域の姉妹都市提携は 1993 年であるが、滝川市ではそれ以前より毎年、訪問団をスプリングフィールドに派遣しており、今回が第 21 回となる。

ジュニア大使訪問団がホームステイや高校の授業参加などを通じて交流を行っている間、北海道マサチューセッツ協会のスー・ルート会長とともに、スプリングフィールドセントラルハイスクールにおける移民の生徒に対する英語授業の様子を見学した。また、スペイン語圏の若者への教育を支援している NPO を訪問し、スプリングフィールドにおける多文化共

生への取り組みについて話を伺った。マサチューセッツ州では、州法で移民の子どもの教育を支援することを規定しており、州と市、学校、NPO がしっかりと連携して支援を行っている。

その後、「ジュニア大使訪問団」に同行し、スプリングフィールド近郊にある、俳優のポール・ニューマン氏が行っている難病を持つ子どもたちのための施設「ホール・イン・ザ・ウォール・ギャング・キャンプ」を訪問した。滝川市ではこの施設をモデルとし、アジアで唯一となる、難病の子どもたちを受け入れる「そらぷちキッズキャンプ」を建設中である。2012年のグランドオープンを目指し、日本国内を中心に難病を抱える子ども達の受け入れを始めるといふ。

なお、24 日には当事務所で訪問団を受け入れ、所長、次長及びシニアリサーチャーが対応した。訪問団はグループに分かれて、ニューヨークでの生活や英語の勉強の仕方などについて質問し、英語と日本語を織り交ぜながら約 1 時間交流を行った。

おわりに

以上紹介した姉妹都市交流は北海道とマサチューセッツ州が 1990 年に締結した姉妹都市提携が契機となっている。マサチューセッツ州の出身で「少年よ、大志を抱け」という名言を残したクラーク博士の意思を継ぐように、いずれの姉妹交流も特に青年交流に力を入れている。こうした交流を経験した青年たちが、両地域の国際理解を深めるとともに、将来、グローバル時代における地域の担い手として活躍してくれることを願う。また、今回訪れたコンコードでは 2009 年まで七飯町で CIR¹（国際交流員）をしていた青年にも出会った。彼は現在、ボランティアで日本人の子どもに英語を教えているという。国際交流で得た知識や経験を活かして地域における外国人支援に結びつけているもので、日本の各地域でも多文化共生施策を考えるうえで大いに参考となる事例である。

自分自身がクレアでの仕事や今回のアメリカ滞在中に学んだことを今後どのように活かしていくことができるのか、改めて考える契機となるマサチューセッツ州訪問であった。

(金子主査 多文化共生課 インターンシップ研修生
公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター派遣)

¹ CIR (国際交流員 : Coordinator for International Relations) : 地方自治体の国際交流部局等で主に国際交流活動に従事しています。